

「山頂広場整備の思い出」

19期卒業生 佐藤 仁 志

出雲高校の校舎改築に併せ、久徴園の整備工事が計画されました。計画を推進すべく久徴園整備検討委員会が設置され、私もその一員に加わり、山頂広場を含む再整備に当たりました。一連の整備に当たって私たちが考えたこと、伝えたかったことなどについてあれこれ述べてみたいと思います。

検討委員会は、出雲高校生物班OBや旧職員、久徴園管理委員会など13名の委員で構成され、平成18年2月から平成18年10月の間6回開催されました。整備に当たっての基本方針策定や、具体的な計画作成、施工業者指導、施工管理など、その役割は多岐にわたるもので、メンバーがそれぞれ得意分野を生かし対応をしました。

最初に行ったのは、整備に当たっての基本方針についてでした。あれこれ議論する中で、最も話題となったのが、生徒のみなさんの久徴園との関わりの希薄さでした。私が在学していた当時は久徴園によく出入りし、いろいろな形で利用したものです。しかし、先生方では現在の生徒のみなさんの久徴園との関わりは相当薄くなっているとのことでした。実際、たまに久徴園に出かけてみたときも、生徒のみなさんと出会うことはまずありませんでしたので、うなずけることでした。

校内に久徴園のような自然の豊かな森が存在し、散策したり植物の学習ができるような環境を有する学校は特異な存在であり、非常に恵まれた環境と思います。校歌にも歌われたこの恵まれた環境が、有効に活用されていないことは大変残念なことであり、以前われわれが親しんできた久徴園にしていくには、どのような整備をすればよいかを議論の中心となりました。

森の中が薄暗く蚊が出るような環境で、山頂部もススキに覆われ、松くい虫に犯され切り倒されたマツの材が山積みされているような殺伐とした状況では、生徒のみなさんも登ってみようといった気持ちにはなれないはずです。そこで、山頂広場をきれいに整備し、気持ちよく利用してもらうにはどうすればよいかを中心に、あれこれ議論しました。

卒業生のみなさんに、整備のための募金を呼びかけたときの山頂広場のイメージ図には、パーゴラと呼ばれる日よけ柵が描かれていました。その整備のための見積書なども準備されていましたが、周囲を大木に囲まれた山頂部には日陰は有り余るほどあり、これ以上の日陰造成は必要ないのではとの思いから、独自の案を作成し提示してみました。それは、中央部に芝生広場を整備し、木陰にベンチを置く。見晴らしのよい場所に展望テラスを整備し、その進入路を松くい虫被害で伐採され山積みされている材の心材部を有効活用した木ブロック施工とするなど、現在整備されているような内容のものでした。特に、山頂広場に山積みされていた伐採材の処理については頭の痛いところで、その搬出や焼却が非常に難しいことから、このような提案を行った次第です。

私が提出した提案を委員会で認めていただき、施工することになりましたが、山頂広場を整備するには重機や資材を搬入しなければなりません。そのためには、どこかに進入路を新設することになります。しかし、道路を新設するとかなりの切り土や盛り土が発生し裸地が生ずることが必至であり、久徴園の落ち着いた環境を破壊してしまうこととなります。自然破壊を最小限に抑えた工事方法がないものかと思案した結果、簡易モノレールによる搬入や搬出を行うことにしました。重機も分解してモノレールで山頂まで運びました。結果的には、自然破壊をほとんど起こすことなく工事が完了し、この工法の採用が非常に良かったと思っています。

なお、もう一つだけこだわったものがあります。それは、校歌に出てくる「久徴園に鳥鳴きて」を具現化するような施設整備です。野鳥はとてもきれい好きで、汚れた羽を洗うためよく水浴びをします。そこで、水あび場の整備をこの事業の中に組み入れることにし、中腹の東屋の奥部に水場を整備しました。来待石を削って作った水場には、多くの野鳥たちが訪れるようになりましたので、来園時にはぜひ訪れてみてください。

以上のような整備を行ったところ、最近では生徒さんも山頂広場などをよく利用するようになったと聞き及びます。苦勞しながらも、整備を進めてよかったなとつくづく思っています。



春日 裕次・画

あ と が き

平成17年、長年の念願であった出雲高等学校校舎の全面改築が完了し、立派な新校舎が出来上がりました。その結果、校地間に植えられていた植物が移転、植え直され、位置を変えたため、80周年記念誌として発刊した「平田植物園めぐり」が用をなさなくなりました。そこで、平成20年、平田植物園めぐり編集委員会をつくり改訂作業を開始しました。島根自然保護協会理事・佐藤仁志氏（19期卒）のアドバイスを受けて、平田植物園を四つのコースに分け、コース順に植物や周囲の様子を解説することにしました。

解説文については、元の平田植物園めぐりをそのまま使うということでしたが、改訂作業を進めるうちに、ついつい欲も出て新たに項目を増やす結果になりました。写真を多くという要望もあり、私が撮り貯めた写真を使うことにしました。中には一部、久徴園前専任管理者の丸山卓氏の写真を借用しています。解説は生徒や一般の方の興味関心を念頭に出来るだけ平易でその植物の特長が出、おもしろく読めるように努めました。専門的な部分については元島根大学助教授・故松村喜則先生に監修していただいて正確を期し、佐藤仁志氏に多くの助言を受けました。

平田植物園は学校敷地内を活用した見本植物園です。地域の植物は勿論のこと、めったに見ることの出来ない貴重な植物も植わっています。大自然を理解する手始めにここで自然の見方を修得するのも一つの方法ではないでしょうか。この小冊子の解説、写真、図を参考にしながら、平田植物園を巡ってみて欲しいと思います。

「久徴園・平田植物園は単なる学校の一施設ではない。それは多くの卒業生と地域社会の人々の情操を豊かに育ててきた教材であった。（中略）平田植物園はこの学校に学ぶ者の精神の基調を育てている。出雲高校の生徒が、粗野に流れず、品格を保っているのはその根本はこの環境にある。」（元PTA会長、学校歯科医：故西村祐二氏の文より）校舎改築を機に、福間利行元久徴会長のご尽力により久徴会から多額の寄付を受け、平田植物園整備検討委員会（会長・安田公臣氏、19期卒）によって整備が行われ、植物園としての機能が回復しました。全国にも類い希なる学校植物園として誇りうる平田植物園を大切に守っていきたいとの願いも込めてこの冊子を著しました。

平成20年の改訂作業では、安田公臣氏、榎恒雄氏（13期卒）、原田明成元PTA会長、佐藤仁志氏にコラムの執筆について快諾をいただきました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。平成25年の再改訂に続き今回も数力所の修正をしましたが、未だ誤りや不備な箇所が多々あると思います。お気づきの点は次回の改訂時に参考にさせていただきますのでご指摘をお願いいたします。

2016年12月 青木充之（7期卒）

索

引

アオキ(青木)	109	ウラジロノキ(裏白の木)	70
アオハダ	42	ウリノキ(瓜木)	28
アカガシ	82	ウリハダカエデ(瓜肌楓)	66
アカマツ	97	ウフミズザクラ	39
アカメガシワ	35	ウンモンチク(雲紋竹)	105
アキチョウジ(秋丁字)	64	エノキ	8
アシズリノジギク	6	エンコウソウ(猿猴草)	54
アジサイ(紫陽花)	99	エンレイソウ	45
アスナロ	93	オオイタヤメイゲツ	64
アマドコロ	16	オオカニコウモリ(大蟹蝙蝠)	69
アメリカキササゲ	125	オオバギボウシ	23
アメリカヤマボウシ	6	オオメノマンネングサ(大雌の万年草)	52
アヤメ	54	オカメザサ(阿亀笹)	103
アラカシ	82	オガタモノキ	37
アリドオシ	26	オッタチカンギク(乙立寒菊)	52
アワブキ(泡吹)	71	オヒョウ	25
イカリソウ	12	オモダカ(面高)	57
イズセンリョウ	22	カイツカイブキ(貝塚伊吹)	96, 123
イズモコバイモ(出雲小貝母)	49	カキツバタ	54
イソギク(磯菊)	53	カクレミノ	91
イタチシダ	68	カシの類	82
イタヤカエデ(板屋楓)	119	カタクリ	63
イチイ(一位)	79	カラスザンショウ	45
イチヨウ(銀杏)	80	カラタチ	78
イヌガシ	62	カラタチバナ(唐橘)	12
イヌザクラ	40	ガマズミ	39
イヌシデ	30	キイジョウロウホトトギス	15
イヌツゲ	78, 117	キクザキイチゲ(菊咲一華(花))	50
イヌビワ(犬枇杷)	19, 28	キジノオシダ(雉の尾羊歯)	67
イヌマキ	81, 95	キソケイ	5
イブキ	96	キッコウチク(亀甲竹)	62
イワガネゼンマイ	68	キツタ(フユツタ、冬蔦)	41
インヨウチク(陰陽竹)	104	キバナアキギリ	13
ウツギ	17	キョウガノコ(京鹿ノ子)	58
ウバユリ	69	キョウチクトウ	108
ウメ	90, 119	ギョリュウ(御柳)	85
ウメモドキ	90, 101	キンモクセイ(金木犀)	110
ウラジロガシ(裏白檜)	40, 82	クサソテツ(草蘇鉄)	67

クスノキ(楠、樟)	115	サンイントラノオ(山陰虎の尾)	51
クマザサ(隈笹)	19, 102	サンシュユ(山茱萸)	86
クマノミズキ	24	サンベサワアザミ	13
クリハラン(栗葉蘭)	66	シオギク(潮菊)	59
クロガネモチ	73, 118, 123	シキミ	20
クロキ	42	シナノガキ	9
クロチク(黒竹)	104	シマカンギク(島寒菊)	52
クロバナロウバイ	10	シモクレン(紫木蓮)	86
クロマツ	127	シモツケ類	37
クロモジ	36	シュウメイギク(秋明菊)	57
ゲッケイジュ(月桂樹)	92, 118	ショウブ	100
ケバйкаウツギ	59	シライトソウ	14
ケヤキ	8	シラカシ	82
コウホネ(河骨)	56	ズイナ	9
コウヤマキ(高野槇)	93	スギ	21
コウヨウザン(広葉杉)	20	スズコナリヒラ	105
ゴキダケ	102	スダジイ	43
コックバネウツギ	40	スノードロップ(雪の花、待雪草)	61
コデマリ(小手毬)	120	スハマソウ	60
コナギ(小葉葱)	101	ズミ(染み)	38
コナラ	29, 72	セイヨウヒイラギ	111
コノテガシワ	5	セリモドキ	3
コハウチワカエデ(小羽団扇楓)	42	センダン(栴檀)	39
コバノカナワラビ(小葉の鐵蕨)	68	ソテツ(蘇鉄)	78
コバノミツバツツジ(小葉の三葉躑躅)	116	ソメイヨシノ	33
コブシ	106	大正天皇お手植えの松	77
コマチダケ	103	ダイオウショウ(大王松)	97
コムラサキ	57	ダイセンオダマキ	50
コラム 1	46	ダイダイ(代々)	121
コラム 2	75	タニウツギ(谷空木)	124
コラム 3	113	タブノキ	28, 36
コラム 4	130	タマスダレ	90
コンギク	3	タマリユウ	107
ザクロ	123	タラヨウ	74
ササバナンテン	109	ダンコウバイ(檀香梅)	58
サザンカ	84, 122	チゴユリ(稚児百合)	23
サネカズラ(実葛)	17	チシャノキ	123
サルナシ	62	チドリノキ(千鳥の木)	44, 65
サワギキョウ(澤桔梗)	57	チャルメルソウ	14
サンインギク(山陰菊)	15	チャンチン	38

ツガ(梅)	84	ハナカイドウ(花海棠)	85
ツタ	41	ハナショウブ	54
テーダマツ	96	ハナズオウ	70
テイカカズラ	4	ハナゾノツクバネウツギ	125
テツカエデ	24	ハナミズキ	107
ドイツトウヒ	94	ハマギク	54
トウカエデ(唐楓)	125	ハマナス	6
トウジュロ(唐ジュロ)	117	ハマビフ	43
ドウダンツツジ	3	ハマユウ(浜木綿)	4
トウチク(唐竹)	102	ハンノキ(榛の木)	32
トウテイラン(洞庭藍)	51	バリバリノキ	63
トウヒ	94	ヒイラギ(柎)	111
トサミズキ	10, 117	ヒサカキ	35, 72
トベラ	32	ヒトツバタゴ	89
ナーシサス バルボコジウム	90	ヒノキ(檜、火の木)	92
ナギ	97	ヒメコマツ	84, 96
ナツツバキ(夏椿)	121	ヒメザゼンソウ	13
ナルコユリ	16	ヒメヤシャブシ	38
ナンテン	109	ヒユウガミズキ	24
ニオイヒバ(臭い檜葉)	95	ヒヨクヒバ	92
ニシキウツギ(二色空木)	110	ヒロハツリバナ	59
ニシキギ(錦木)	87	肥後椿	73
ニセアカシア	108	フィリホウオウチク	105
ニリンソウ	15	フェイジョア	120
ニワウルシ	38	フクジュソウ(福寿草、元日花)	60
ヌルデ	32	フシグロセンノウ(節黒仙翁)	61
ネグンドカエデ	126	フジナデシコ	62
ネコノチチ	31	フタバアオイ	20
ネジキ(捻じ木)	101	フタリシズカ	16
ネズミモチ	35	ブナ	25
ネムノキ(合歡木)	128	ブラッシノキ	112
ノカンゾウ	2	フランスカイガンショウ(フランス海岸松)	98
ノグルミ	29	ベニシダ(紅羊歯)	68
ノコンギク	3	ベニホウオウチク(紅鳳凰竹)	105
ノシラン	26	ベニワビスケ	44
ノリウツギ(糊空木)	124	ペカン	121
バイカオウレン	19	ホウチャクソウ	22
ハウチワカエデ(羽団扇楓)	65	ホウライチク(蓬萊竹)	105
ハゼノキ	35, 43	ポウラップाइセン	90
ハチク(破竹)	103	ホオノキ	43

ホソバイヌビフ	20	ヨコグラノキ(横倉の木)	126
ホソバタブ	31	ラカンマキ(羅漢楨)	94
ホソバヒイラギナンテン	58	ラクウショウ(落羽松)	97
ボダイジュ	87, 125	リョウブ(令法)	71
ホテイチク(布袋竹)	105	リョウメンシダ(両面羊歯)	67
マサキ	34	レッドロビン	80
マテバジイ	43	ロウバイ(蝟梅)	88
マルバアオダモ	124	フビスケ	27
マルバウツギ	10		
ミスミソウ	60		
ミズバショウ	56		
ミツガシワ(三櫛)	54		
ミツデカエデ(三手楓)	34, 119		
ミツバウツギ(三葉空木)	44, 121		
ミツマタ	18		
ミヤコアオイ	14		
ミヤマカタバミ	22		
ムクノキ	37		
ムサシアブミ	25		
ムラサキシキブ(紫式部)	35, 70		
ムラサキツユクサ	59		
メグスリノキ(目薬の木)	65		
メタセコイア	11		
メダケ(女竹)	105		
モチツツジ	8		
モミ	8, 95		
ヤツデ(八手)	110		
ヤブカンゾウ	2		
ヤブコウジ	74		
ヤブソテツ(藪蘇鉄)	66		
ヤブツバキ	27, 116		
ヤブデマリ	120		
ヤブニッケイ	73		
ヤマアイ(山藍)	70		
ヤマグルマ	27		
ヤマザクラ(山桜)	33		
ヤマモミジ	64		
ヤマモモ	112, 118		
ユキフリイチゲ(雪割一華(花))	60		
ユズリハ(譲り葉)	27, 118		

改訂四版

平田植物園めぐり

発 行 平成12年 9 月 1 日

改訂版
発 行 平成20年 3 月31日

改訂三版
発 行 平成25年 9 月20日

改訂四版
発 行 平成29年 3 月21日

発行所 島根県立出雲高等学校
平田植物園・久徴園管理委員会

印刷所 (有) 土江明文社
出雲市東福町1984-1



改訂版「平田植物園めぐり」